海部高等学校海部コモン他建設事業

要求水準書

令和８年１１月１９日

徳島県教育委員会

教育創生課

目次

第１　総則

１　適　　用　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

２　海部高等学校 N-E.X.T.ハイスクール構想事業の理念における「海部コモン」及び「共創インテリジェンスハブ」の役割について　・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

３　基 本 方 針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

第２　本事業の概要

１　事　業　名　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

２　事 業 場 所　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

３　業 務 内 容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

４　施設の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

５　添 付 資 料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第１　総則

１　適用

本要求水準書は、徳島県立海部高等学校探究拠点整備事業（「海部コモン」新築及び「共創インテリジェンスハブ」改修）（以下「本事業」という。）において、徳島県（以下「県」という。）が受注者に要求する施設整備基準（以下「要求水準」という。）を示すものであり、本事業に係る技術提案に適用する。

要求水準は、県が本事業に求める機能や性能の最低基準を規定するものであり、受注者が要求水準以上の提案を行うことを妨げるものではない。

２　海部高等学校 N-E.X.T.ハイスクール構想事業の理念における「海部コモン」及び「共創インテリジェンスハブ」の役割について

（１）海部高等学校 N-E.X.T.ハイスクール構想事業：「場所にとらわれない学び」による選択肢の最大化と「地域に根差した学び」による地域協働探究による、「自ら越境し、自ら選択・決定できる」人材育成

海部高等学校における N-E.X.T.ハイスクール構想事業は、過疎・中山間地域における急激な少子高齢化と地理的制約を克服し、ICT を活用した教育ネットワークによる「場所にとらわれない学び」と、地域のリアルな地域資源・課題をフィールドとした「地域に根差した学び」を融合させる「ハイブリッド探究モデル」の構築を目指している。この改革の中心には「探究」を据え、生徒が自ら問いを立て、多様な人々と対話しながら進路や生き方を自ら選択・決定できる資質・能力を育むとともに、将来的に地域へ人材が還流する「海部人財バリューチェーン」の創出を掲げている。この教育ビジョンを空間的・機能的に具現化するための中核拠点となるのが、新築する「海部コモン」と、校内既存棟を改修する「共創インテリジェンスハブ」である。

（２）「知の深化（インプット）」と「社会実装（アウトプット）」を往復する学習循環の確立

生徒の探究学習を単なる調べ学習や一時的なイベントに終わらせず、真に深い学びと自己実現へと昇華させるためには、「深く思考し、学術的な知やデータと向き合う場」と、「実社会の多様な大人と交わり、アイデアを形にして社会へ発信する場」の両輪が不可欠である。校内に位置する「共創インテリジェンスハブ」で日中の授業等を通じて文献・情報にあたり、教科横断的な知を深めて仮説を研ぎ澄ます（インプット・知の深化）。そして、日中、放課後や夜間・休日を通して、校外に開かれた「海部コモン」へと飛び出し、地域住民や事業者、域外の専門家と協働してプロジェクトを実践・検証する（アウトプット・社会実装）。このシームレスな往復を可能にする学習環境を一体的に整備することこそが、本事業における施設整備の根幹である。

（３）「海部コモン」の役割：地域と交差し、実社会で挑戦する「動の探究拠点」及び「高度学習インフラ」

新築棟「海部コモン」は、学校と社会の境界を融解させ、地域住民、地元企業、大学生など多様な世代・立場の主体が集う「まちのリビング（心理的安全性の高いサードプレイス）」としての役割を担う。

- **１階【地域連携コモンスペース・探究スペース】：** 開かれたパブリックスペースとして、地域住民との日常的な対話や探究活動の相談・伴走支援を行う。シェアスペースキッチン（チャレンジショップ）等を併設し、生徒が地域と協働してビジネスや地域課題の解決に挑戦する「社会実装の実践の場」として機能させる。
- **２階【配受信センター・公営塾・自学自習スペース】：** 協力校や高等教育機関と接続する遠隔授業配受信ネットワークの受信・配信拠点として機能させる。都市部と同水準のハイレベルな教科指導や進学講座を受信できる環境を整えるとともに、外部人材等を活用した公営塾や個別最適な自学自習スペースを完備し、地方におけるアカデミックリソースの不足を根本から解消する学習インフラを確立する。

（４）「共創インテリジェンスハブ」の役割：教科横断の知と対話が交差する「静の探究拠点」及び「共創の場」

教育管理棟４階の図書室及び会議室を一体改修して整備する「共創インテリジェンスハブ」は、正規の教育課程（総合的な探究の時間「海部学」や各教科の授業）において、生徒と教員が日常的に探究を深める校内の中核拠点である。

- 古典的な図書室と会議室の壁を取り払い、豊富な蔵書や学術データベース、デジタル情報端末に囲まれた環境の中で、対話と協働を生む「島型探究デスク」等を配置する。
- 国内外の大学や協力校と中継し、遠隔でプレゼンテーションや相互評価を行える最先端のプレゼンテーション機能を兼ね備え、生徒同士、あるいは教員と生徒が教科の枠を超えて知を共創する「知の交差点」として機能させる。

（５）「海部人財バリューチェーン」を駆動する地域協働のエコシステム

「海部コモン」での実社会を巻き込んだ「探究コンペ」や地域協働プロジェクト、そして「共創インテリジェンスハブ」での知的な探究の深まりを通じて得られた成功体験と自己効力感は、生徒の進路意識を大きく拡張する。さらに、新設される「探究ドミトリー（探究寮）」に滞在する域外から入学した生徒や短期交流生がこれらの拠点を日常的に利用することで、多様な価値観が交錯する刺激的なエコシステムが形成される。高校３年間の濃密な協働の原体験は、生徒にとって地域への強い愛着と誇りを育み、卒業後に県外へ進学・就職した場合であっても、将来的に地域へ還流し、持続可能な地域社会の担い手となる「海部人財バリューチェーン」を強力に駆動する原動力となる。

３　基本方針

本事業における施設整備（新築棟「海部コモン」及び校内既存棟改修「共創インテリジェ

ンスハブ」）にあたっては、前項の教育的役割・ビジョンを最大限に具現化するため、以下の基本方針に基づき、創意工夫とアイデアに満ちた施設整備・改修の提案を行うこと。

（1）「知の深化」と「社会実装」をつなぐシームレスな空間設計

校内（教育管理棟4階）の「共創インテリジェンスハブ」における静的・学術的な探究（インプット）と、校外に開かれた新築棟「海部コモン」における動的・実践的な探究（アウトプット）が互いに連動し、生徒の思考と活動の循環を促進する空間構成とすること。

（2）多様な学びと対話・共創を促す柔軟かつ機能的な空間構成

学年や教科の枠、学校と地域の境界を越えた多様な交流・協働を誘発する空間とすること。

・機能的な構造と創意工夫の両立を期待する。

・建築費をいたずらに増やすのではなく、機能的・合理的な構造をベースとしながらも、外観や内装の素材選定、シンボルとなる附属的なモニュメント等に工夫を凝らし、学校の新しいPR看板となる意匠を期待する。

・**海部コモン：** 1階は地域住民や事業者が自然に立ち寄り、生徒と対話できる開放的なパブリック性（まちのリビング）と、実践的な商品開発や催事等を行えるシェアスペースキッチン機能を備えること。2階は公営塾や個別自学自習に対応し、集中と協働の双方が可能なレイアウトとすること。

・**共創インテリジェンスハブ：** 従来の画一的な図書室・会議室の概念を脱却し、対話と知の融合を生む「島型探究デスク」等を備え、小グループワークから学年単位の合同授業・探究発表まで、多様な授業形態に柔軟に対応できるレイアウトとすること。

（3）「場所にとらわれない学び」を支える最先端のICT・遠隔教育環境の構築

改革先導拠点として、都市部や協力校（脇町高校等）、高等教育機関と接続する高度なオンライン学習環境を実現すること。

・海部コモン2階の「配受信センター」及びハブのプレゼンテーション空間には、安定した大容量ネットワーク環境、高精細カメラ・音響設備、大型マルチディスプレイ等を完備し、遠隔合同授業、国内外とのオンライン探究発表、デジタルコンテンツ配受信を円滑に行える仕様とすること。

・防音性・遮音性に配慮した個別配受信ブース等を適切に配置し、複数グループが同時にオンライン対話・個別受講を行っても干渉しない環境を整えること。

（4）地域資源の活用と自然環境との調和（徳島県産木材の積極的活用）

海部地域の豊かな自然風土に調和し、利用者が木の温もりや地域の恵みを感じられる親しみやすい施設計画とすること。

・内装材や主要な家具（造り付け本棚等）には、徳島県産木材（杉・桧等）を積極的に導入し、生徒の心理的安全性を高めるとともに、脱炭素社会の実現や環境教育の教材としても資する建築計画とすること。

（5）安全・安心の確保

確実な構造耐力・耐震性を確保するとともに、非常用電源の確保、避難動線の明瞭化、防犯・入退室管理システムの適切な配置を行い、放課後や夜間利用におけるセキュリティと開放性を高度に両立させること。

（6）工事の確実な実施と工程管理

・複数年度にわたる事業計画および予算枠組み（債務負担行為等）を理解し、適切な工法選定や施工計画の工夫により、指定された工期内で確実かつ安全に施設整備・解体・改修を完了させること。

（7）ライフサイクルコスト（LCC）の低減及び維持管理性の確保

・維持管理費（ランニングコスト）の抑制：将来の修繕、大規模更新、日常の清掃や保守管理に係る経費（ライフサイクルコスト）の低減を目指し、耐久性・耐摩耗性に優れ、経年劣化しにくい仕上げ材・資材を選定すること。

・メンテナンス性に優れた設備・構造：日々の清掃や設備点検、機器フィルター交換等のメンテナンスが容易に行える配置・構造とすること。故障・更新時にも配管や配線へのアプローチが容易な施工計画とすること。

（8）脱炭素化（GX 推進）及び環境負荷低減（ZEB 基準等）

・ZEB 基準相当の省エネ性能確保：国の「脱炭素社会に向けた住宅・建築物における省エネ対策等の在り方・進め方」及び「徳島県 GX 推進計画」に基づき、高断熱外皮の採用や高効率空調・LED 照明機器の導入等により、一次エネルギー消費量を大幅に削減する「ZEB Ready」相当の優れた省エネ性能を確保すること。

・再生可能エネルギーの活用：創エネ・省エネ設備の導入による温室効果ガス排出削減を目指し、太陽光発電設備等の導入について積極的な提案・検討を行うこと。

（9）施工中の安全確保及び学校教育活動・近隣環境の担保

・学校教育活動の優先及び影響防止：改修及び解体・新築工事の施工にあたっては、学校の通常授業、定期考査、模擬試験、検定試験、学校行事、部活動に支障を及ぼさないよう、騒音・振動・粉塵・臭気に対する防止策を講じること。特に騒音が発生する作業は、学校側と密に日程調整を行い、時間帯や工法を考慮すること。

・安全管理と交通対策：施工期間中、生徒、教職員、保護者、近隣住民の安全確保を最優先とし、工事現場と学校動線（生徒・部活動動線）を明確に仮囲い等で分離すること。工事車両の出入りにあたっては、周辺道路の交通渋滞防止に配慮するとともに、適切な個所に十分な数の交通誘導員を配置すること。

・近隣住民への配慮：工事着工前に近隣住民への計画説明や意見調整（近隣対応）を丁寧に行うとともに、工事に伴う周辺環境への配慮を徹底すること。

第2　本事業の概要

1　事業名　　海部高等学校海部コモン他建設事業

2　事業場所

（1）　所在地　徳島県海部郡海陽町大里字古畑５８－２の一部

（2）　用地面積：18,995.13 ㎡
　　建築面積：　4,664.58 ㎡
　　延床面積：13,149.48 ㎡

（3）　法的規則

①	都市計画区域	区域外
②	用途地域	指定なし
③	建ぺい率	－
④	容積率	－
⑤	防火地域	指定なし
⑥	特別用途地区	指定なし
⑦	その他地域地区	埋蔵文化財の確認中 遺跡等があった場合、基礎の深さによっては、発掘期間を必要とする場合がある。

3　業務内容

（1）　設計に関する業務
- 海部コモン新築及び共創インテリジェンスハブ改修に係る実施設計
- 駐輪場の一部撤去及び新設に係る実施設計
- 正門前花壇の撤去及び整備
- 基本条件については、「4　施設の概要」を確認すること

（2）　施工に関する業務
- 建築工事、電気設備工事、機械設備工事（給排水衛生設備、空調設備等)、外構工事等、海部コモン（新築）及び共創インテリジェンスハブ（改修）の施設整備に係るすべての工事
- 建築用地の既存工作物の撤去、外構工事等を含む。

（3）　工事監理に関する業務
- 上記すべての工事に係る工事監理業務

（4）　近隣対応に関する業務
- 近隣住民への計画説明、調整
- 建設に伴う近隣対応

（5）　その他の業務
- 敷地周辺の供給処理施設（電気、電話、ガス、上下水道等）調査及び諸官庁協議・申請
- 関係法令等の申請、許認可手続（建築基準法、消防法、都市計画法等）

・官公庁その他への手続及びこれに要する費用は、事業者が負担すること。

（６）　業務実施に係る留意事項

①　建設方法やコスト、工期については適正なものとすること。

②　地質調査は県の許可を得た上で実施するものとし、その費用については事業者の負担とする。また、調査の結果により計画の見直しが必要になった場合についても、企画提案書提出時の見積金額を超えてはならない。

③　県及び関係機関との打ち合わせ事項を記録し、文書で県へ提出すること。

④　県と十分に協議を行いながら業務を実施し、業務の進捗状況に応じて、適宜、中間報告を行うこと。また、関係機関への申請及び申し出に係る協議、手続等については、事前に県の確認を受けた上で行うこと。

⑤　県が関係機関等に対して行う説明等に係る資料作成への協力を行うこと。

⑥　関係機関と十分に協議を行った上で、工事を実施すること。また、各種申請、検査等に必要な手数料等は事業者の負担とする。

⑦　関係法令等を遵守し、近隣及び学校の教育活動に対する騒音、振動、塵埃等の影響を最小限にとどめるように対策を講じること。また、近隣に対しては事前に説明等を行うこと。

⑧　周辺地域の交通渋滞への配慮や敷地内の安全を確保するため、交通誘導員を適切に配置すること。特に工事車両の出入りについては、生徒及び学校関係者の安全に十分配慮すること。

⑨　やむを得ない理由で補償問題等が生じた場合は、事業者が誠意をもって解決にあたり、事業の円滑な実施に努めること。

⑩　周辺の施設等に損傷を与えた場合は、当該施設の所有者並びに県と協議の上、事業者の負担によって現況に復旧すること。

⑪　工期中に他の設備への工事等が必要になる場合は、工程会議において協議するとともに工程等について配慮・協力すること。

⑫　「別添　備品表（参考)」を参考に、安全・安心で快適な運営に必要な備品が配備されることを考慮すること。

⑬　「別添業務仕様書」を参照すること。

4　施設の概要

（１）全体共通基本条件

・「自ら越境し、自ら選択・決定できる」生徒を育むため、生徒の探究心やアイデアが沸き立ち、地域住民や国内外との対話・協働が自発的に生まれるクリエイティブな空間として整備すること。

・両施設ともに、死角のない安定した高速無線 LAN（Wi-Fi）環境を構築するため、各所に無線 LAN アクセスポイントを設置するための空配管等を整備する。なお、

提案にあたっては、生徒の同時接続や通信負荷を想定した、無線 LAN アクセスポイントの最適な配置計画（電波シミュレーション等）を提示すること。また、有線 LAN（Cat6A 以上）を利用するために必要な空配管等を適切に整備すること。

・内装材は、傷がつきにくく、清掃が容易な素材とする。

・全熱交換器等の適切な換気設備及び高効率空調設備を配置し、快適な室内環境と省エネルギー性を両立させること。

・すべての窓にカーテンまたはブラインドを設置すること。

・ディスプレイへの外光の映り込み（グレア）を防ぐため、窓面には高遮光性の遮光設備を設置する。照明器具は LED とし、グレアカット仕様（または配置の工夫）とするとともに、調光・調色機能の導入を検討すること。

（２）新築棟「海部コモン」の施設概要

① 基本条件

・建設場所

海部高等学校敷地内（敷地南部の既存駐輪場東側）

・構造・規模

構造は指定しないが、２階建て、延べ床面積５００㎡程度とする。

・地質調査

必要に応じ事業者が実施すること。

・外部空間・外構計画

車両・歩行者・生徒動線の安全を確保すること。空調室外機置場、受変電設備（キュービクル等が必要な場合)、避難経路等を適切に配置すること。また、夜間利用を想定した屋外照明・アプローチ舗装を計画すること。

・外観デザイン

海陽町の自然景観と調和しつつ、本校教育改革のシンボルとして高い発信性と認知度を有する意匠とすること。

・耐震性能

構造体：Ⅱ類、建築非構造部材：A 類、建築設備：乙類

・校内連絡網（校内放送設備、内線電話）

日常の円滑な業務連絡および緊急時の迅速な連絡体制を確保するため、既存の放送設備、校内電話交換機（PBX 等）と適切に連携・接続し、各階に、校内放送を受信できるスピーカーおよび、内線電話回線を新規に設置すること。

② 諸室構成及び条件

・１階【地域連携コモンスペース・探究スペース】（動の探究・地域協働フロア）

地域住民、地元事業者、大学生等が放課後や夜間に生徒と自由に行き交い、協働と対話を通じて実社会の価値観に触れる「オープンイノベーション拠点」として位置づける。 従来の学校の多目的室や図書室のような画一的で簡素な設えではなく、

先進的な企業のコワーキングスペースを想起させる、高いデザイン性とインスピレーションを刺激する上質な空間を創出すること。また、広がりを活かし、用途を限定しないシームレスで開放的な空間を提案すること。
シェアスペースキッチンは、単なる調理実習室としての機能にとどまらず、食を通じた自然なコミュニケーションと地域住民等も含めたコミュニティ形成の核（ハブ）となるようデザインすること。
空間全体の開放感と一体感を最大限に引き出すため、天井高は３ｍ程度とすること。
可能な限りオープンスペースが広くなる設計とすること。

ア　オープンスペース

・空間内に「活発なディスカッションを生むオープンエリア」「少人数で深く対話できるソファラウンジ」「一人で集中・思索できる窓際カウンター」など、多様な居場所（サードプレイス）を配置し、利用者が目的や気分に合わせて自由に選択できる構成とすること。
・各種イベントやプレゼン等にも柔軟に対応できるよう、「可動式スライディングウォール（仕切り）」を設置し、フレキシブルな空間拡張・分割を可能とすること。
・高輝度大型プロジェクター（レーザー光源）、電動昇降式大型スクリーン、高性能カメラ、マイク・スピーカー等の音響設備（PA 一式）を常設することを想定し、臨場感のある配信・受信が可能な設計とすること。また、プロジェクター設備に係る照明は消灯（0%）から 100%まで段階感なく滑らかに調光（連続調光）できる仕様とすること。
・壁一面の造り付けホワイトボードを配置すること。
・シンボルとなるような大きな造り付け本棚を配置すること。

イ　シェアスペースキッチン（チャレンジショップ機能）

・アイランド型のオープンキッチンや、カフェバーを思わせるビッグカウンターを中央に配置し、周囲に人が集まりやすい「見せるキッチン」とすること。
・洗練されたインテリアの一部として魅せる提案とすること。
・調理場と独立手洗い器、シンクなどは、飲食店営業許可の基準を満たす設備配置とすること。
・十分な量の収納機能を持つ造り付けの収納棚を設置すること。

ウ　和室（６畳程度）

・国際交流や地域住民との多様な環境での交流の場として小上がりの和室を整備すること。
・床の間を整備すること。

エ　小ルーム

・応接セット（ソファーとテーブル)、作業用机、キャビネットを配置することを想定した小ルームを設置すること。
・施錠可能な部屋として整備すること。

オ　トイレ

・多目的トイレは、１基設置する。
・男子トイレは、小便器２基、大便器１基を設置する。
・女子トイレは、２基設置する。

カ　倉庫

・１０㎡程度の容量を確保すること。

キ　玄関・受付

・一人が作業できる程度の受付カウンターを配置すること。

・２階【配受信センター・公営塾・自学自習スペース】（静の探究・個別最適学習フロア）

本フロアは、オンライン教育や教科学習に対応する「先進的 ICT インフラ」と、個々の学習スタイルに応じた「多様な集中・対話環境」が融合した高機能な学習拠点とする。

配線・電源計画については端末の多用に対応するため、天井吊り下げ式のリーラーコンセント（伸縮式電源）や床面アップコンセント等を効果的に配置し、床面にコードが這わないスマートで安全性の高い給電システムを構築すること。

照明・音響計画については長時間の学習でも眼精疲労を起こしにくい高品質な LED 照明を採用すること。また、配受信教室及び面談室周辺は、音漏れやエコー（反響音）を抑える吸音性のある天井・壁仕上げとすること。

施設全体の一体感と生徒の活動状況の可視化を図るため、壁の上部に防音ガラス等を用いた見通しの良い空間構成とすること。

開放的で豊かな学習環境を創出するため、構造上の制約や設備配管スペース等に配慮しつつ、天井高は３ｍ程度とすること。

ア　次世代配受信教室（約 70 ㎡）

・３５名が一斉でオンライン講義を受けることができる設計とすること。
・オンライン講義の配信・受信及び対面授業の双方に対応する、高画質・高音質なハイブリッド学習空間とすること。
・空間中央部には、視認性を高める天井吊り下げ式のサブモニターを配置し、室内どこからでもクリアに情報共有ができる映像・音響環境を構築すること。
・多様な講座規模やイベントに対応できるよう、高い遮音性を備えた「可動式スライディングウォール（仕切り)」を設置し、フレキシブルな空間拡張・分割を可能とすること。

イ　公営塾・アクティブラーニングエリア（約 70 ㎡）

・10 名程度の一斉講義から、小グループでの協働学習までシームレスに対応できる柔軟な配置計画とすること。
・1 人席、2 人席、3～4 人席へと自由に変形・組み替えができるモジュール型ファニチャー（可動式デスク・チェア）を整備することを想定した設計とし、個人学習からグループワークまで多様な「学び合い」の形態を誘発するデザインとすること。
・個別の学習指導や進路指導、メンタリングに対応するため、スリムな縦長面談用個室ブース（1-on-1 ルーム）を 2～3 室配置すること。ガラス窓を組み込む等､閉塞感を抑えつつプライバシーと防音性に配慮したデザインとすること。
・ホワイトボード機能付きの壁を多数配備すること。
・一人が作業できる程度の受付カウンターを配置すること。2 階全体の受付場所を兼ねることが可能な位置に配置すること。

ウ　自習空間

・壁面空間を有効活用した造り付けの集中カウンターデスクを配置すること。
・周囲の視線を遮り集中力を高める移動可能なプライベートキャレル（ブース席）を 10 席程度整備することを想定すること。
・卒業生や地域から寄付された参考書・書籍等をストック・展示し、知の継承を象徴するシンボリックな造り付けの大型壁面本棚（寄付ライブラリー）を配置すること。

エ　トイレ

・車いす用トイレは、１基設置する。
・男子トイレは、小便器２基、大便器１基を設置する。
・女子トイレは、２基設置する。

オ　倉庫

・１０㎡程度の容量を確保する。

・共通部分

セキュリティ管理

・外部人材が自由に出入りすることを想定して、安心安全なセキュリティ環境を提案すること。
・１階部分のみを開放することがあることを想定したセキュリティ環境を提案すること。

（３）教育管理棟４階改修「共創インテリジェンスハブ」の施設概要

① 基本条件

・改修場所

海部高等学校 教育管理棟４階（会議室、図書室、図書準備室、廊下等を含むエリア）。

・改修面積

約３３３㎡程度（改修対象範囲の詳細は別添図面参照）。

・構造的配慮

既存壁の撤去・開口にあたっては、建物の構造耐力を十分検討し、関係法令に適合させること。

法令と照らし合わせて、廊下の一部またはすべての部分を共創インテリジェンスハブの一部とすることを検討すること。

・図書移設の要求仕様

①図書の段階的移設作業（本工事/受注者範囲）：既存図書室の改修に伴い、蔵書（約24,000 冊）の安全な保護・運搬のため、以下の②、③の通り段階的な移設作業を行うこと。

②一次移設（仮移設）：図書室の改修前に、事前に学校・県等の担当者と協議および指示を受けた上で、図書の分類・梱包・保護・運搬を行い、普通特別教室棟 1 階ミーティングルームの指定場所へ移設・配置すること。

③二次移設（本移設）：共創インテリジェンスハブの改修後、普通特別教室棟 1 階ミーティングルームから改修施設共創インテリジェンスハブ（書庫・開架書架）への再移設・配架補助作業を行うこと。

② 諸室構成及び条件

・会議室・図書室・図書準備室の一体化改修（知の交差点・探究ステーション）

既存の会議室と図書室・準備室を隔てる壁を取り払い、知（書籍）と対話が交差する一体的な大空間を創出する。授業規模や活動形態に応じて図書室機能部分と探究・会議室機能部分を柔軟に仕切り、または開放できる遮音性のある可動間仕切り（スライディングウォール等）を設置すること。

探究スペース兼会議室機能部分は、生徒の探究スペースや教職員の会議室、国内外の大学や協力校と中継し、遠隔で探究成果のオンラインプレゼンテーションや遠隔講義スペースを兼ね、多地点接続による開催が可能な空間へと改修する。

従来の図書室の枠にとらわれず、最新の設備環境と機能的な空間設計を導入し、利用者の知的好奇心を刺激する洗練された居心地の良い空間へと刷新すること。

ア　探究スペース兼会議室機能

・生徒同士の対話と協働を自然に誘発する「島型」の可動式探究デスク・チェアを整備することを想定した設計とすること。

・壁面にホワイトボード機能を持たせ、空間に調和した造り付け本棚を設置すること。

・高輝度大型プロジェクター（レーザー光源）、電動昇降式大型スクリーン、高性能カメラ、マイク・スピーカー等の音響設備（PA 一式）、インターフェースボックスを常設することを想定し、臨場感のある配信・受信が可能な設計とす

ること。

・遮光性能については、プロジェクター機能の活用時に不備が出ないよう設計すること。また、プロジェクター設備に係る照明は消灯（0%）から 100%まで段階感なく滑らかに調光（連続調光）できる仕様とすること。

イ　図書室機能

・施設の設計にあたっては、全国学校図書館協議会が制定している 「学校図書館施設基準」に準拠し、必要な機能(閲覧、貸出、レファレンス、蔵書管理等)や面積、書架の間隔等を適切に確保すること。（蔵書数約 24,000 冊：開架約 11,000 冊、書庫約 13,000 冊）

・直射日光による書籍の劣化・変色を防止するため、窓際への書架配置は避け、窓面には日差し調整が可能なブラインドを整備すること。

・壁面全体を活用した天井高さまでの壁面高書架に加え、フロア内にも高書架（壁・床固定による耐震強化を必須とする）及び腰高程度の低書架を組み合わせて配置し、視線の抜けと収蔵能力（蔵書数）を両立させること。

・壁面書架の上部等に小窓（ハイサイドライト）を計画するなど、自然光を取り入れつつ、明るく開放的な室内環境を演出すること。

・文庫・新書棚、大型本架、参考図書コーナー、新着・雑誌展示棚を、生徒の興味を惹くプロムナード沿いに可視性高く配置すること。

・窓面に沿って、自然光を感じながら集中できる自習デスク（個別キャレルデスク）、四人掛け閲覧テーブル等を配置する設計とすること。

ウ　図書準備室・書庫

・現在図書室と会議室の真ん中にある準備室を端に配置することで図書室と会議室の一体空間となるよう設計すること。

・高密度な保管を可能とする「可動複式５連移動書架」と、可視性・一覧性に優れた「大型固定式高書架」を効果的に組み合わせることで、整理・保管機能と迅速な出納・レファレンス機能を両立させ、司書等の管理者及び生徒が目的の資料へスムーズにアクセスできる高効率なバックヤード・収蔵体制を構築すること。

エ　受付カウンター

・貸出・返却処理、レファレンス、図書装備作業、PC・プリンター操作が一体的に行える「L 字型（または広幅）カウンター」を設置すること。

・カウンターは、自習エリアと閲覧・協働エリアの双方を見渡せ、かつ出入口及び室内全体への視線が通る位置に配置し、管理上の死角を極力作らない計画とすること。

・カウンター下部は、作業者が座った際に膝が当たらない人間工学に基づいた構

造とし、背面にはカウンターバック棚を整備すること。

オ　その他

・廊下スペース及び壁面は、校内への情報発信拠点として活用できるよう、POPやポスター、探究成果物等を容易に掲示・差し替えできる素材（マグネット対応壁面、掲示用レール、ピクチャーレール等）を提案すること。

（4）施工及び管理上の留意事項

・教育活動（授業・学校行事）の完全担保

教育管理棟4階の改修工事にあたっては、生徒・教職員の安全確保を最優先とし、粉塵・振動・騒音の発生する工事は放課後、土日、長期休業期間（夏休み等）に集中して行うなど、授業や部活動に支障をきたさない工程計画を立案・遵守すること。

・仮設・搬入動線計画

生徒・教職員の通行動線と工事車両・作業員の動線を仮囲い等により極力分離すること。特に教育管理棟4階への資機材搬入・搬出方法については、安全対策を万全に講じること。

・入退室管理・セキュリティ連携

「海部コモン」は放課後・夜間・休日に地域へ開放されることから、オートロック、スマートロック、防犯カメラ等を用いた適切なセキュリティシステムを構築すること。また、校内と海部コモンとの情報連携（緊急通報等）に配慮すること。

5　添付資料

（1）　別添業務仕様書
（2）　備品表（参考）
（3）　簡易図面
（4）　教室・管理棟耐震改修資料
（5）　柱状図（No.1,No.2,ボーリング位置図）
（6）　小体育館新築資料
（7）　第2海部寮新築資料（用途上可分）
（8）　事業概要書